

デイリー・ジーザス・ニュース #218

イエスはラザロを死から蘇らせる

イエスはマルタに告げる…」私は復活であり、永遠の命である」

ヨハネ11:17-27

17 イエスが到着すると、ラザロがすでに4日間も墓に横たわっていたことがわかりました。 18 ベサニーは2マイル以内にあった 19 多くのユダヤ人が、マルタとマリアの兄弟を慰めるために、エルサレムからやって来ました。 20 マルタはイエスが来られると聞いて、迎えに出ましたが、マリアは家に残っていました。

21 「主よ」とマルタはイエスに言いました。「もしあなたがここにいてくださったなら、私の兄弟は死なかつたでしょう。しかし、あなたはここにはいなかつたのです！」 22 しかし、今でも私は、あなたが求めるものは何でも神が与えてくださることを知っています。」

23 イエスは彼女に言いました。「あなたの兄弟は再び立ち上がるでしょう。」

24 マルタは答えました。「私は、終わりの日の復活の時に彼がよみがえることを知っています。」

25 イエスは彼女に言われた。「わたしは復活であり、命である。わたしを信じる者は、死んでも永遠の命を得る。 26 わたしを信じて永遠の命を得る者は、決して死ぬことがありません。あなたはこれを信じますか？」

27 彼女は答えた。「はい、主よ。私はあなたが世に来られるべきメシア、神の子であると固く信じております。」

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ =^{MT}、マーク=^M、ルカ=^L、ヨハネ=^J、使徒行伝=^A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書書を識別します。さらに、**赤いイタリック体**はイエスの言葉を示します。旧約聖書の引用は大文字で書かれています。

| コンテキストダイジェスト | |
|--------------|----------------------------------|
| 位置 | エルサレム近郊のベタニア |
| タイムライン | 3月（38月） |
| イエスの生涯の文脈 | 第7段階：ペレアにおけるイエスの宣教 |
| | B. イエスはラザロを死から蘇らせる |
| タイトル | 3. イエスはマルタに告げる。「わたしは復活であり、命である。」 |

コメント：

デイリー・ジーザス・ニュース #218

今日の朗読には、ヨハネ福音書に記されているイエスの5番目の「わたしはある」という宣言が含まれています。「わたしは復活であり、命である。」（11章25節）この宣言は、イエスによるもう一つの力強い約束、すなわち、私たちがご自身において永遠の救いを得るという確信と結びついています。ヨハネ11章25-6節は、第四福音書の中で最も重要な箇所の一つです。この箇所については後ほど詳しく取り上げます。

マルタは衝撃を受けながらイエスのもとへ駆けつけました。妹のマリアを家に残し、姉妹たちを慰めるためにエルサレムからやって来た多くの客の世話をさせました。これは、この小さな家族がいかに重要であったかを示しており、この奇跡がパリサイ人に伝えられた際にエルサレムでどれほど大きな衝撃を与えたかを理解する助けとなります。

マルタがイエスに語った言葉は、おそらくイエスが生涯で聞いた中で最も胸が張り裂けるような言葉だったでしょう。原文のギリシャ語では、マルタの発言は条件法で、その条件が事実に反し、仮定的なものであることを示しています。「もしもあなたがここにいてくださつたら、私の兄弟は死ななかつたでしよう...」と彼女が言ったとき、マリアはイエスに「主よ、あなたはここにはいませんでした！」と丁寧に伝えていたのです。この点を明確にするために、私はこの翻訳にこれらの語句を加えました。マルタはこの文法形式を選んだことで、イエスにそのように理解してもらうことを意図していたからです。

イエスはラザロを癒すためにベタニアに到着することを選ばず、ペレアでさらに数日滞在することを選んだため、マルタにとってはラザロの死はイエスのせいでした。マルタは兄の死の責任をイエスに押し付けていました。マルタがイエスにそのようなことを言う自由を感じていたことは、実に驚くべきことです。それは、彼女がどれほどイエスを信頼し、イエスの無条件の愛にどれほど安心していたかを示しています。

それだけでは不十分だったかのように、マリアはマルタの後からイエスに会いに来た時、同じ丁寧な非難を繰り返しました（11:32）。ヨハネが物語の後半で、イエスが「深く心を動かされ、心を騒がせ」、涙を流したと記しているのも不思議ではありません（11:33-36）。

イエスは初めから、最終的にラザロを死から蘇らせることをご存じでしたが、それでもマルタとマリアの痛みと衝撃を自分の痛みとして感じ、彼女たちの悲しみに共感しました。イエスがご自身のタイミングを疑つたり、兄弟の死を責めたりしても、イエスは怒りませんでした。たとえそれが一時的なものだと分かっていても、イエスは彼女たちの苦悩と悲しみに無私無欲に共感しました。

この箇所にあるヨハネによるイエスの愛の描写を読み飛ばさないでください。イエスを憎んでいたユダヤ人の指導者たちでさえ、イエスの涙を見て「ああ、イエスはどれほど愛しておられたか」と言ったことでしょう。しかし、彼らは実際に何が起こっていたのか、ほんの一部しか知りませんでした。マルタ、マリア、そしてイエスの間のこのやり取りは、福音書全体を通して、イエスの謙遜さと愛について最も感動的な洞察の一つを与えてくれます。

心が碎かれたこの状況において、マルタは福音書の中でも最も偉大な信仰告白の一つを語りました（11:27）。彼女は、わずか半年前に自宅でイエスの御言葉を聞くことができなくなつて以来（ルカ10:38-42）、長い道のりを歩んできました。マルタは新約聖書の中でも最も偉大な「カムバック」の一つを成し遂げたのです。

デイリー・ジーザス・ニュース #218

イエスはこの文脈においても、5つ目の「わたしは在る」という素晴らしい言葉を述べました。 「わたしは復活であり、命である。」復活と永遠の命は「物」ではなく、イエスという人格です。もしあなたがイエスと関係を持つなら、あなたはイエスにあって永遠の命を持つことになります。なぜなら、イエスはあなたを死から復活させてくださるからです。

イエスは既に、ご自身（ヨハネ2:18-21）と歴史上のすべての人を、瞬時に、そして同時に復活させることができると宣言しておられました（ヨハネ5:21-29）。イエスは、ご自身の中に永遠に生きる神の命の性質を持っておられるので、肉体的に死ぬすべての人にとっての復活なのです。イエスはここでもギリシャ語の「強調否定」という文法形式を用いて（11:26）、永遠の命という究極の確信を与えてくださいました。

永遠の命の約束は、愛する人の肉体の死を悲しむ私たちにとって慰めとなります。それは単なる決まり文句ではありません。イエスご自身が、悲しみに暮れるマルタを慰めるために、永遠の命の確信という励ましを語られました。この約束と「わたしはある」という宣言が、イエスが深く愛した人々への悲しみの働きのために選ばれたのであれば、それは悲しむ私たちすべてにとっても、最高の励ましとなるでしょう。イエスの永遠の命の約束は単なる言葉ではなく、愛の中で語られた真実なのです。

応用：

使徒パウロは、悲しみの奉仕においてイエスの模範に従いました。彼はそれをテサロニケ人への第一の手紙4章13-18節で詳しく述べています。

13 兄弟たちよ。死に眠りについた人々について、あなたがたに知らせないでいてほしくありません。それは、希望を持たない他の人々のように、あなたがたが悲しむことのないためです。14 私たちは、イエスが死んで復活されたと信じています。そして、神はイエスにあって眠りについた人々を、イエスと共に導き入れてくださると信じています。15 主の言葉に従って、あなたがたに言います。主の来臨の時まで生き残っている私たちは、眠りについた人々より先に生まれることは決してありません。16 主御自身が、大合唱と、御使いの長の声と、神のラッパの響きとともに、天から下って来られます。そして、キリストにあって死んだ人々が、まず最初に復活します。17 その後、生き残っている私たちは、彼らと共に雲に包まれて引き上げられ、空中で主に会います。こうして、私たちは永遠に主と共にいるのです。18 ですから、これらの言葉をもって互いに励まし合いなさい。（NIV）

あなた個人としては、イエスとパウロのこれらの言葉からどのように慰めを得ることができるでしょうか。

これらの言葉で誰を励ますことができますか？